

2020年3月期 第2四半期 決算短信補足資料

2019年10月31日(木)

【名証2部】 証券コード:6111

 旭精機工業株式会社

売上高はプレス機械、自動機・専用機、ばね機械及び航空機部品が増加したことにより、前年同期比+2.6%の66億2千2百万円 (+2.6%)

()は前年同期比

精密金属加工品：20億7千4百万円 (▲10.4%)

✓ 自動車関連部品及び水晶振動子関連部品の減少

小口径銃弾：12億3千9百万円 (▲8.0%)

✓ 納入計画に沿った売上計上の結果、減少

プレス機械：20億2千2百万円 (+25.0%)

✓ リチウムイオン電池缶製造用プレスの輸出増加

ばね機械：4億5千8百万円 (+15.2%)

✓ 自動車関連向けが増加

自動機・専用機：4億2千1百万円 (+49.7%)

✓ 自動車関連向けが増加

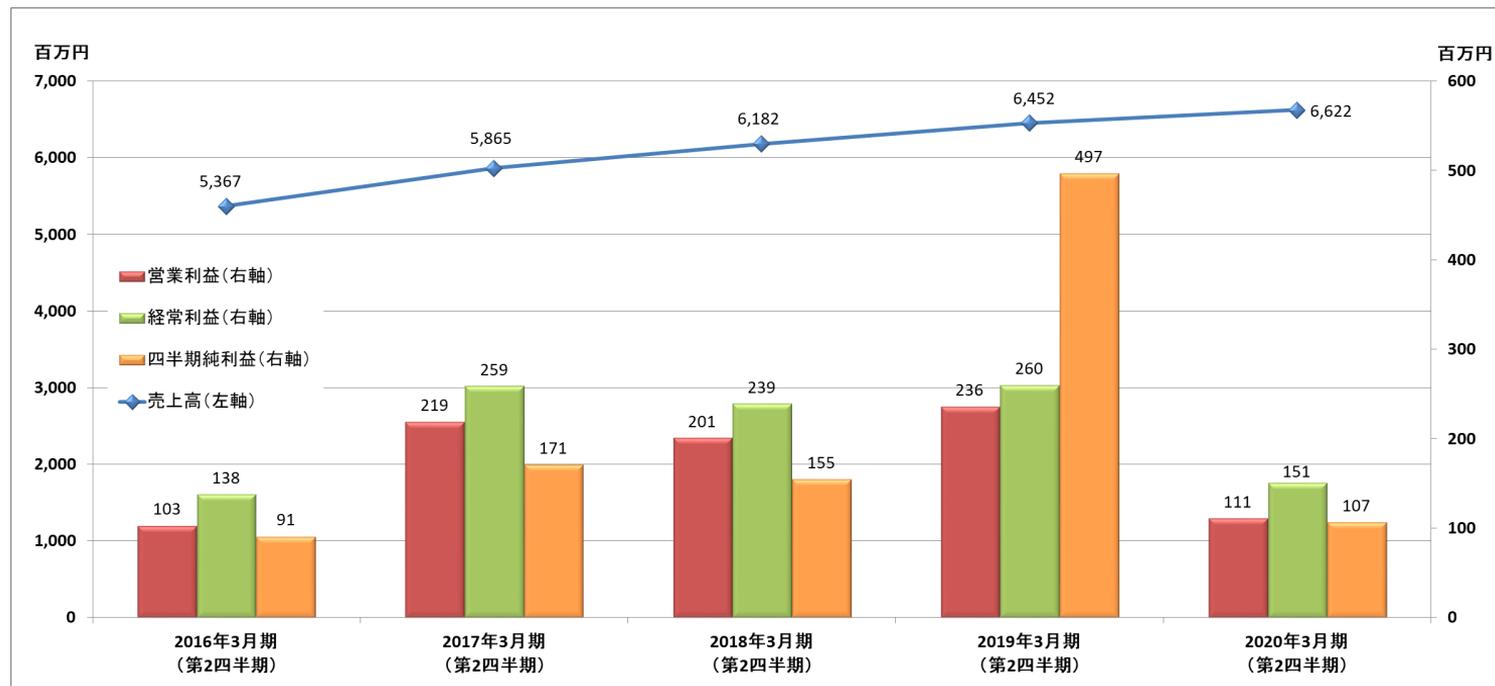
航空機部品：3億7千2百万円 (+28.0%)

✓ 旅客機用部品の増加

第2四半期の売上高・利益推移

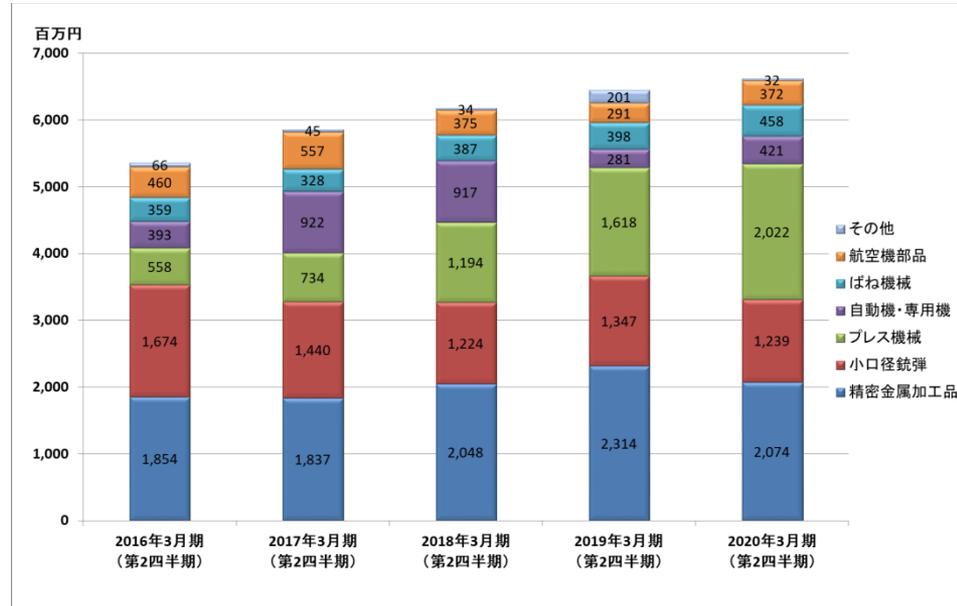
(単位:百万円)

	2016年3月期 (第2四半期)	2017年3月期 (第2四半期)	2018年3月期 (第2四半期)	2019年3月期 (第2四半期)	2020年3月期 (第2四半期)
売上高	5,367	5,865	6,182	6,452	6,622
営業利益	103	219	201	236	111
経常利益	138	259	239	260	151
四半期純利益	91	171	155	497	107



第2四半期のセグメント別売上高推移

(単位:百万円)	2016年3月期 (第2四半期)	2017年3月期 (第2四半期)	2018年3月期 (第2四半期)	2019年3月期 (第2四半期)	2020年3月期 (第2四半期)	前年比
精密加工事業部	3,529	3,277	3,272	3,661	3,314	▲9.5%
精密金属加工品	1,854	1,837	2,048	2,314	2,074	▲10.4%
小口径銃弾	1,674	1,440	1,224	1,347	1,239	▲8.0%
機械事業部	1,838	2,588	2,910	2,790	3,308	18.6%
プレス機械	558	734	1,194	1,618	2,022	25.0%
自動機・専用機	393	922	917	281	421	49.7%
ばね機械	359	328	387	398	458	15.2%
航空機部品	460	557	375	291	372	28.0%
その他	66	45	34	201	32	▲84.1%
合計	5,367	5,865	6,182	6,452	6,622	2.6%



通期の売上高・利益推移及び予想

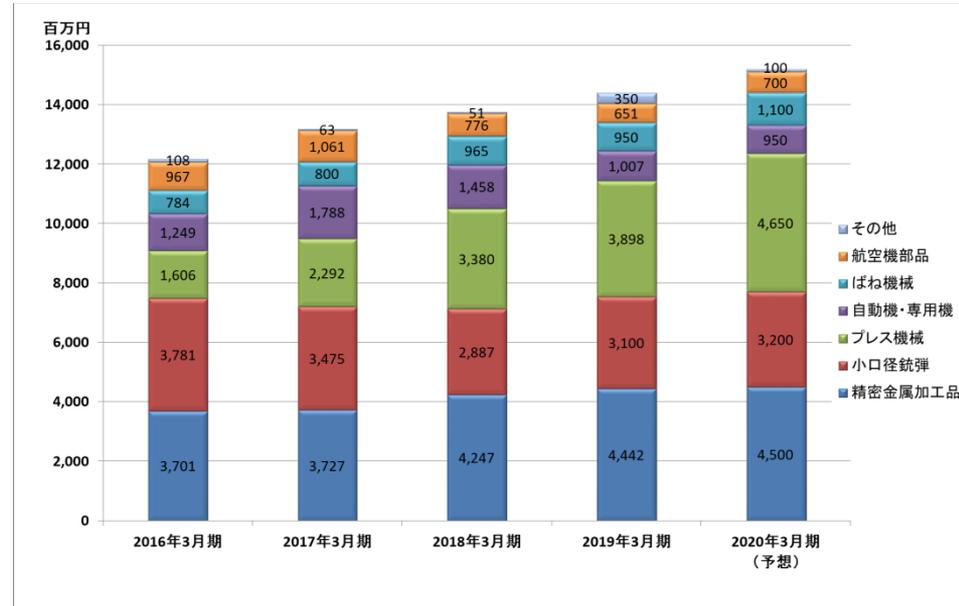
(単位:百万円)	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (実績)	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (予想)
売上高	12,200	13,208	13,768	14,400	15,200
営業利益	475	401	499	564	570
経常利益	538	474	575	618	630
当期純利益	350	292	372	764	450
1株当たり 当期純利益(注)	123円29銭	102円87銭	130円82銭	308円38銭	186円58銭

(注)当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。
2016年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。



通期のセグメント別売上高推移及び予想

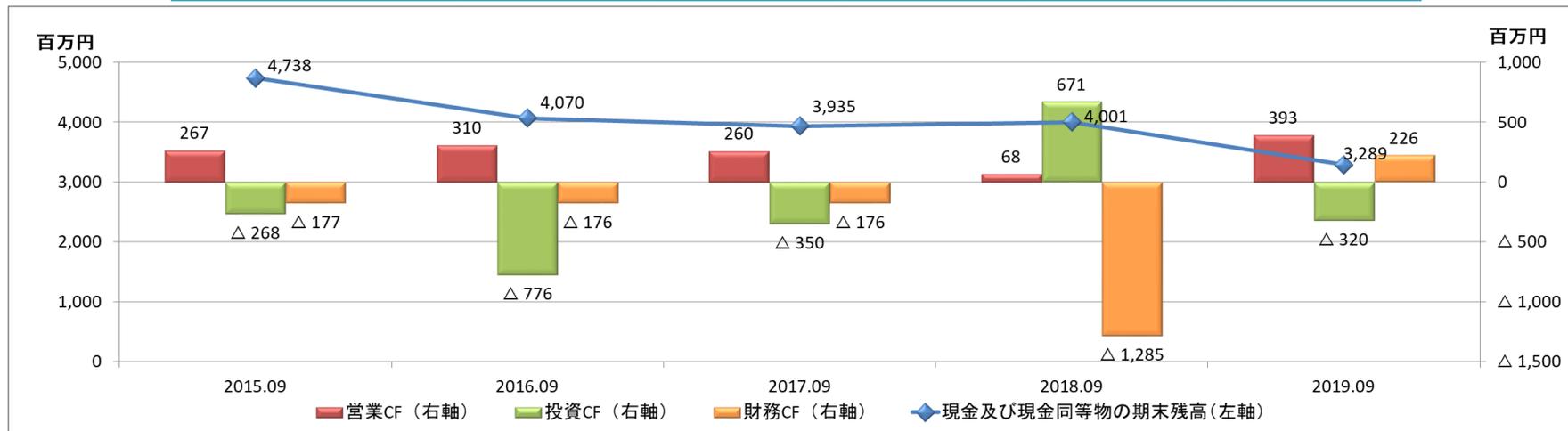
(単位:百万円)	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (予想)	前年比
精密加工事業部	7,483	7,202	7,135	7,542	7,700	2.1%
精密金属加工品	3,701	3,727	4,247	4,442	4,500	1.3%
小口径銃弾	3,781	3,475	2,887	3,100	3,200	3.2%
機械事業部	4,716	6,005	6,633	6,857	7,500	9.4%
プレス機械	1,606	2,292	3,380	3,898	4,650	19.3%
自動機・専用機	1,249	1,788	1,458	1,007	950	▲5.7%
ばね機械	784	800	965	950	1,100	15.8%
航空機部品	967	1,061	776	651	700	7.5%
その他	108	63	51	350	100	▲71.4%
合計	12,200	13,208	13,768	14,400	15,200	5.6%



第2四半期のキャッシュ・フロー推移

(単位:百万円)

	第2四半期累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)	第2四半期累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	第2四半期累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	267	310	260	68	393
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 268	▲ 776	▲ 350	671	▲ 320
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 177	▲ 176	▲ 176	▲ 1,285	226
現金及び現金同等物の期末残高	4,738	4,070	3,935	4,001	3,289



キャッシュフロー状況

当第2四半期末における現金及び現金同等物は32億8千9百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

✓ 2019年3月末より主に、仕入債務の減少で4億2千4百万円及びたな卸資産の増加で4億1千7百万円減少したものの、売上債権の減少で9億3千3百万円及び減価償却費で3億8千6百万円計上。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

✓ 2019年3月末より主に、有形固定資産の取得で2億8千6百万円支出。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

✓ 2019年3月末より主に、配当金で1億6千8百万円支出したものの、短期借入金により4億円収入。

財政状態及び設備投資・減価償却費の推移

(単位:百万円)	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (第2四半期)
総資産	18,853	19,754	20,581	19,031	18,622
純資産	13,112	13,607	14,280	12,924	12,717
自己資本比率	69.5%	68.9%	69.4%	67.9%	68.3%
1株当たり純資産	4,610円15銭	4,784円63銭	5,022円56銭	5,358円83銭	5,273円43銭

(注)1. 当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。
2016年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。
2. 『『税効果会計に係る会計基準』の一部改正』(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を問う事業年度の期首から適用しており、全事業年度以前に係わる財政状態については、当該会計基準等を遡って適用して算定しております。

資産、負債及び純資産の状況

(総資産) : 186億2千2百万円、前期末△4億8百万円

✓ 主に、現金及び預金が2億9千9百万円、製品が2億7百万円、仕掛品が2億1百万円それぞれ増加したものの、受取手形及び売掛金が9億4千7百万円、投資有価証券が2億2百万円それぞれ減少。

(負債) : 59億5百万円、△2億1百万円

✓ 主に、短期借入金が4億円増加したものの、電子記録債務が2億7千7百万円、未払法人税等が1億3千5百万円、支払手形及び買掛金が3千7百万円それぞれ減少。

(純資産) : 127億1千7百万円、△2億6百万円

✓ 主に、その他有価証券評価差額金が1億4千4百万円、利益剰余金が6千1百万円それぞれ減少。

財務状態の推移



設備投資(工事ベース)・減価償却費の推移及び予想

(単位:百万円)	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (予想)
設備投資	1,500	777	655	1,487	947
減価償却費	686	752	723	771	829

Topic 1. 「ALPHANOMOUS(アルファノマス)」*提唱

MF-TOKYO2019(7月31日から8月3日@東京ビッグサイト)が開催、創業100周年の2053年迄のビジョンとして「ALPHANOMOUS」提唱。当日はブース中央に3m×3mの大型スクリーンを設置し、当社が考える未来のプレゼンテーションを実施しました。

*生産現場に関わる人々が、機械からもっと離れて過ごせる未来、そしてクリエイティブで多様な働き方ができる未来を願い、**機械へ様々な自律機能をプラスアルファ**するビジョン



(プレゼンテーションスクリーン)



(ロゴマーク)

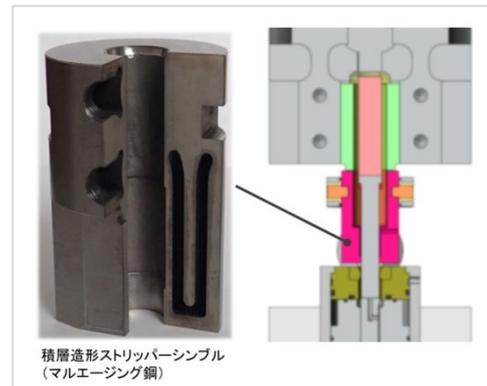
Topic 2. 「知の拠点あいち重点研究プロジェクト」*参加

～産学行政連携による2つの研究テーマに取り組み確定～

- ① 大規模材料データ及びCAEによる自動車向け設計生産技術
 - ・ 材料の大規模データベースによる高精度な設計支援システム(CAE活用技術)の開発
- ② 積層造形技術の高度化と先進デザインの融合による高機能部材の創製
 - ・ 冷却構造を持つ積層造形金型の多機能・高信頼化に向けた開発(特性評価・数理最適化)

*付加価値の高いモノづくりを支援する研究開発の拠点

大学等の研究シーズをいち早く企業の製品化へと橋渡しする産学行政連携による共同研究や産業界の技術ニーズに対応した技術開発、技術支援を行っている拠点であり、当社はそこに参加。



Possibility

Technology opening up new possibilities

旭精機工業株式会社

IRに関するお問い合わせ先
旭精機工業株式会社 経営企画・IR室
TEL:0561-52-5356

【将来に関する記述等についてのご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその現実を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。